

繪本豐臣勲功記

三編
貳

4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8

繪本豊臣勲功記三編二之巻

繪本豊臣勲功記三編二之巻

目録

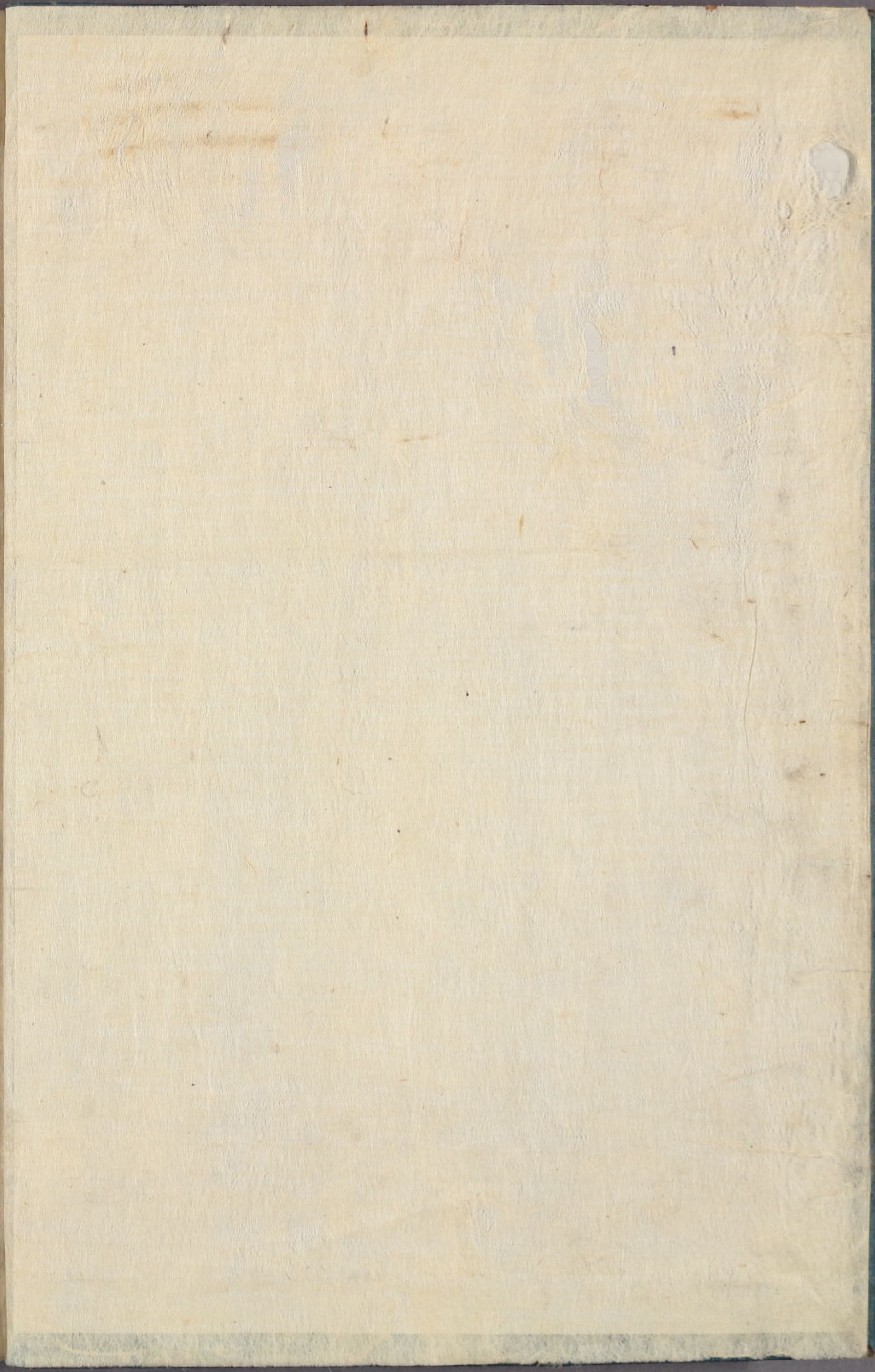


義昭任將軍秀吉衛京都

屬之好再起

將軍家合戦六條本園寺

屬竹中謀敵





義照公
参内信長
陪從
龍顔と
拜す敷圖

皇臣巴三編



皇臣巴三編

内裏の探事親。紫宸院涼の宮殿も傾倒するをきき、造營の用途所
 心小まらせむ。増くや、公九御殿上人の居處をんどのかひひらきて喜れ
 り。亦、秀吉此懸せり。瞬、懐勿体なき好松永。自己、何が果懸ふら
 金銀、金杖と費せども、十善法君の所座、公御達の堂、唐館舎、新をく小
 荒廢せし。余、小のん喜みて、こまも、園つ、障の懸り、先、儀、用、殿、を、勅
 め、あらせ、内裏を、細公、の、達の、家、居、を、修、復、を、さ、す、と、て、此、事、を、言、は、し
 つる。小、信、長、駿、中、も、と、お、が、さ、ま、さ、ま、さ、ま、も、宮、易、あ、ら、さ、る、大、企、を、六、願、の、願、奉、
 小、延、引、せ、ら、し、ま、し、。當、時、公、御、の、困、窮、を、祈、り、も、救、助、を、多、し、と、信、長、叙、爵、の
 祝、賀、を、ら、し、歸、命、の、報、謝、と、稱、し、。月、御、雲、密、を、招、請、を、小、新、々、替、り、免、淨、小
 こ、そ、と、請、小、應、と、奉、會、せ、ら、し、。信、長、既、小、將、軍、家、の、假、法、所、小、系、と、。全
 く、ハ、遠、所、所、小、お、わ、て、信、一、た、免、旨、を、傳、へ、さ、さ、る、が、預、小、所、の、々、これ、免、し、う、は、

同月廿二日。二條園白太大臣晴良公を、初め、免、せ、ら、せ、殿、上、殿、下、雜、式、を、免、る
 隔、々、く、延、請、あり。信、階、小、準、と、て、座、次、を、懸、ら、し、。將、軍、家、小、も、出、座、せ、り、く。
 山の千美海、の、芳、翰、百、果、の、堆、盛、百、香、味、の、眼、耳、鼻、舌、を、湯、を、を、り、。登、應、の
 品、小、類、を、。既、小、七、軸、の、巻、を、勅、め、ん、と、さ、る、。响、小、際、を、。懸、賊、の、種、を、料、足、以、て
 淨、異、を、ら、。禮、上、の、公、御、を、小、ま、さ、ま、と、く、信、長、の、仁、義、信、德、を、深、く、感、と、有、り、
 禮、び、當、日、の、中、を、報、を、と、後、者、を、酒、宴、を、辭、し、終、り、。最、後、母、一、く、退、出、し、け、り。
 諸、も、翌、日、將、軍、家、の、入、洛、を、ら、し、小、將、軍、宣、下、の、漸、悦、を、。免、免、さ、さ、る、と、思、ひ、
 百、ま、一、親、せ、さ、ま、と、漸、る、あり。彼、無、行、の、障、を、信、し、。こ、ま、近、新、骨、疎、守、を、平
 治、の、功、を、達、さ、る、人、を、懸、ま、せ、ん、と、智、く、も、漸、徇、出、さ、る、。同、月、の、廿、二、日、あ、ま、さ、を
 行、ふ、形、を、六、廿、四、日、の、朝、信、長、御、小、の、準、備、を、せ、ら、し、。漸、報、稱、小、出、仕、し、。これ、ハ、
 將、軍、家、の、々、情、殘、を、惜、ま、を、玉、ひ、寸、志、の、漸、苦、耐、あ、ら、さ、る、と、。漸、感、状、を、

日あらざるは此地小おひて裁車なり。昭るる水祿二年正月二日の灯は曙天
隈の津と進發とを無と岩成を税助の直地小京都へ上らん事を指揮して
軍を進めんむれども二好日向も同中野守の進小坂城偏執して後軍を事小
進を得ず。當天も河列へ礼入と義継が腹分を放火はし二日八山城兵津野
小撃茶四日の暮小かよふ頃東福寺小陣を移し。本園寺の曉漢を寝やめ
新明彌ら推進んと隊伍を立てて後うけける

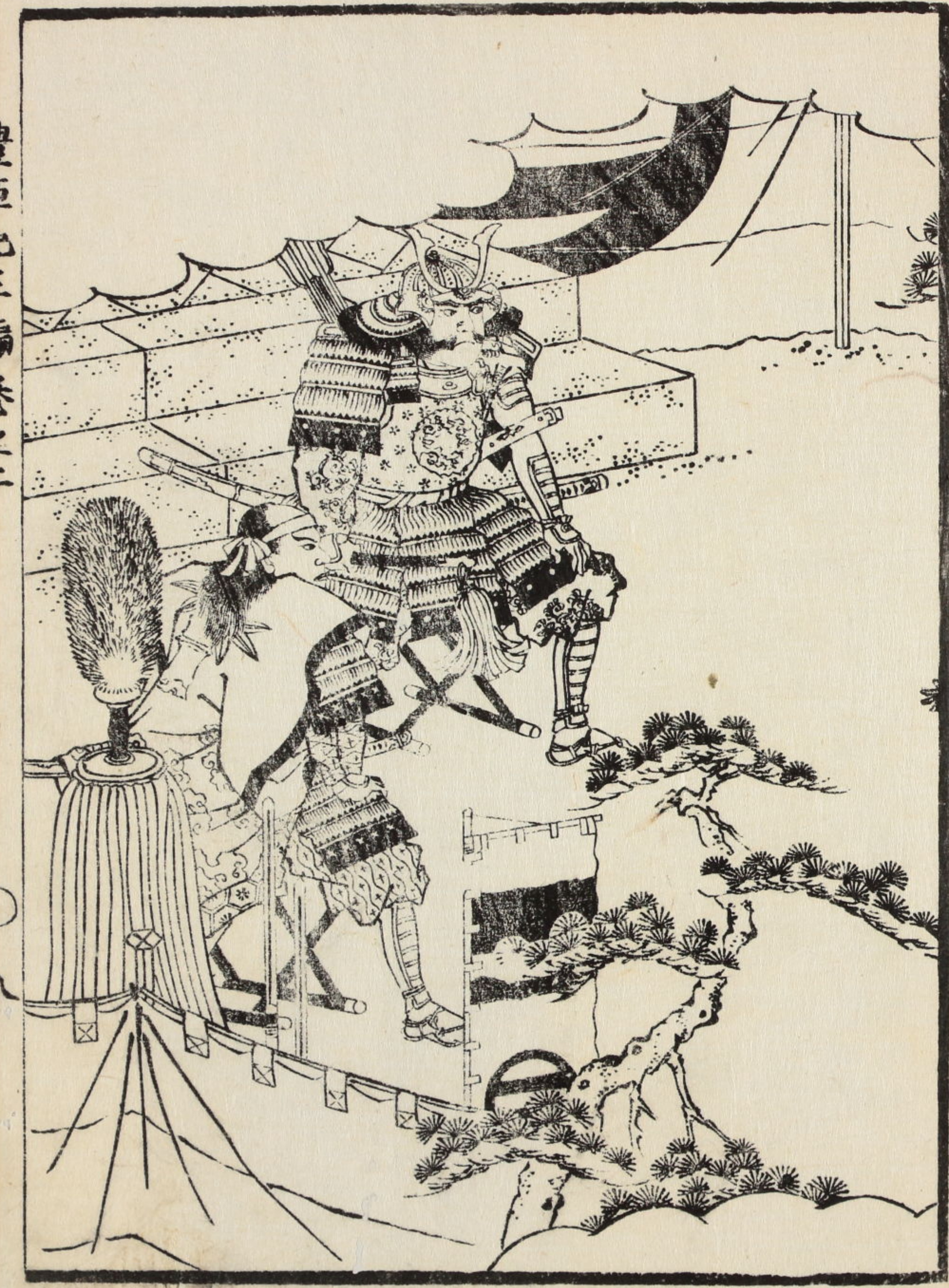
將軍家二茶本園寺合戦馬行中謀款

虎ハ爾が種を愛して終小を體と久ふとや。然バ二好家の奮勇士と岩成
之税助好通ハ既小京都の地小投らるる堂小東西揺る心地して諸軍を列せし
臺地小推發一播小本園寺と改換んと覺るを待り勅へり。茲小將軍義我此公
ハ新家督一玉ひてより初めの正月あられば新院後の緯盤きさ度小二日早

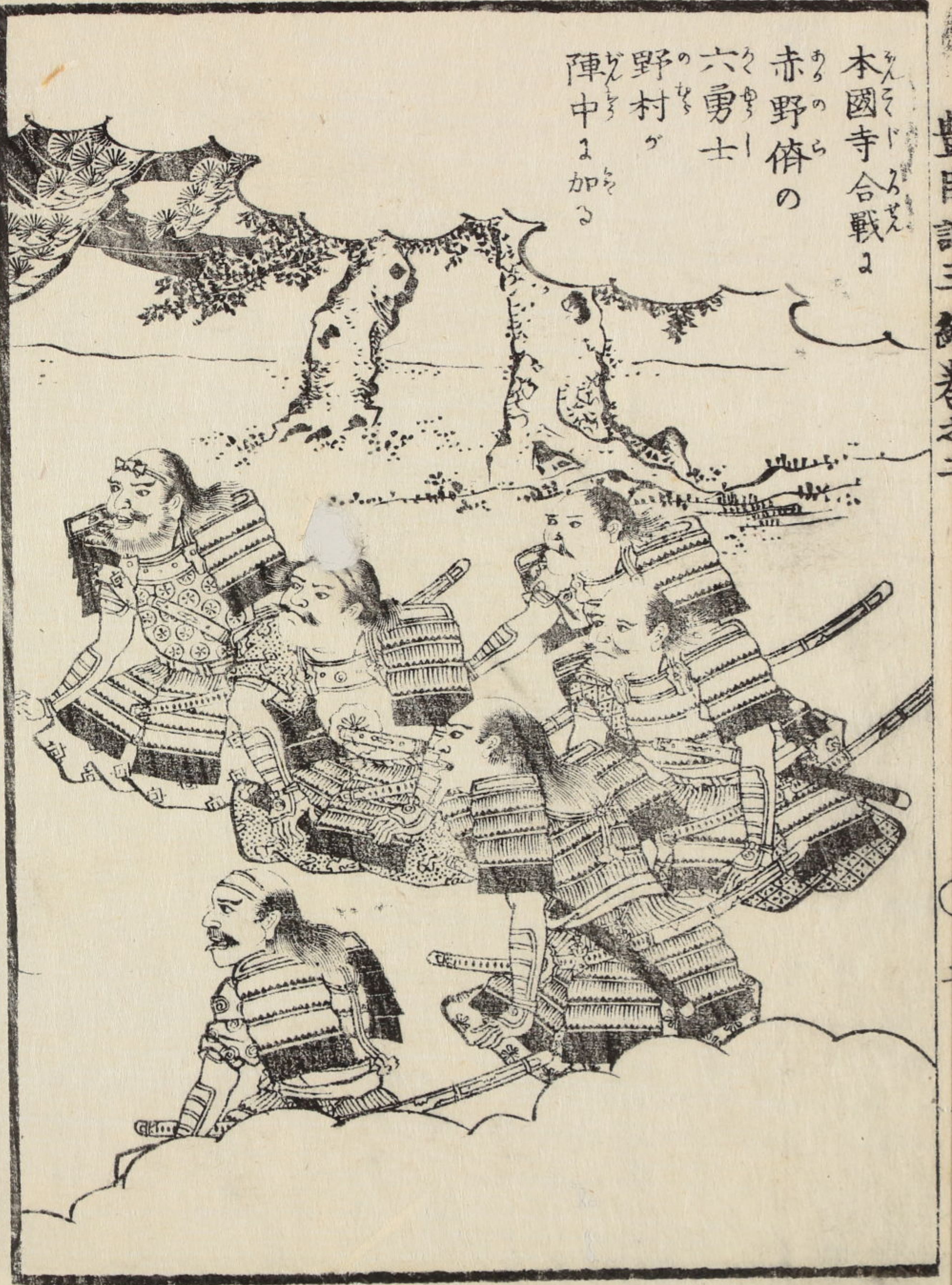
朝驅馬來りて二好落び蜂起なり。此地小京都へ攻上るよし海伸あり小愕然
と多ひいゝと之と命を問もさ。此城被城より廻使の急を告ることさ
波の傳し。機舎生憎や本下ハ元日の新禮東てのち。江列小公事出来は
こそ一日の未過るをうる。彼布（下りてい）と歸らる。然ども守護の志士ハ之
の如くありたるはこそせめて拒抗べしと。正月四日の早朝より、彼新下
小園寺外面門寺中通路を分隊をなして防衛せしむ。小坂城門
小細川右馬頭孫賢之助大和守藤秀友人と大將とて五百余人を固
死させ。諸樓門の儀田左邊將監。同右馬元松馬孫之助と大將とて
小も五百有余人なり。將軍新院の向の管我々庫助阪山城也。二階堂
後河守候。五百余騎を守護し。まわらる中。小野村哉申吉ハ武勇勝
き一者。形も六。彼大將を命ぜらる。五百余人を引率して。四通巷を固る。

遠事せりて河別ある本中が群へ馳使せしむ。四日の申比下刻本中のお侍
 馳来り書翰せりて細川右馬頭不吉に告ぐ。逆賊不意に蜂起し本
 國寺に所祈せ就るよし。切心願ふ無至らぬ。藤吉郎が今又限不此群の公事
 此治と決し。明朝ハ早速帰京す。その間ハ清水寺ある苗守の軍士と招び
 せられて防衛ありと書く。うらる小右馬頭遠書翰の趣を披察不及び
 たてす。軍六。將軍家小も最頼如く思召。秀吉が票上る小儀せり。清水寺
 の陣へ使者と遣し。苗守居の軍士と招びせしむ。不當陣の苗守職たるる。
 竹中半兵衛重治。浅野孫兵衛長政。二百余騎にて苗陣せしむ。秀吉より
 の書翰来至し。凶徒の防衛と竹中も軍計らひ申されし。重治もいかに
 なく。將軍家より。の遣使とて。之測無助と遣す。これ逆徒と防衛を公認し
 して。昭々せらる。苗守も。孫兵衛小陣不守を。從者二百人を連て上使し其小

うら連伴。本國寺へ来り。一。ら。軍を衛只一個多し。將軍家小も不審が不
 こ。形から。細川右馬頭藤賢と。凶徒逆徒の計器を所部せらる。小
 重治龍ど。所各申す。之。好懐起つる。りて。外の外の大軍多し。
 凶ハ。の。恐。敵。あら。を。之。所。認。せ。り。て。願。言。仕。せん。當。時。從。濟。西。の。所。備。隊。
 其。ま。と。時。と。て。就。誓。ひ。ま。わ。ら。ぬ。敵。軍。が。何。を。今。ま。で。見。ら。ぬ。わ。ら。ぬ。は。神。の。趣
 と考ふる。京別家原を攻臨せし。有。年。の。十二。月。廿。八。日。を。ま。さ。り。今。月。二。日。小
 至りて。河。別。地。と。進。軍。す。直。地。小。東。都。へ。進。む。と。河。別。を。先。指。す。つ。つ。と。ら
 凶徒の心一。致。せ。ぬ。邪。心。も。決。意。を。ぬ。か。ず。軍。が。何。も。撥。集。し。も。蜂。蟻。小。部。と。し
 此。あ。ひ。で。漸。心。寧。く。お。が。し。め。せ。と。解。理。詳。不。言。仕。せ。し。て。將軍。家。と。そ。と。あ。ま。り。
 諸將も。小。兵。小。隊。も。同。意。し。了。得。小。東。下。が。田。も。職。り。能。こ。そ。形。ら。る。小。軍。核
 と。察。し。勝。敗。を。言。し。と。と。殊。に。孫。兵。衛。し。ま。し。く。て。秀。吉。軍。指。揮。し。し。て。竹。中。小



本國寺合戦
赤野倅の
六勇士
野村の
陣中
加る



信せ玉ひらる。重治河野の命令を以て、河奉東一たてまつる。一應内程の防備
 を指揮す。然るに本國寺の漸分隊の領く定め、まゝと小本中野の千
 金騎と野村越中守が隊小當副哨号を以て、進退せよと、舞を以て、勤ら
 當夜の言に刻報を以て、最上魏と勇士六人野村が陣門小振束り、拙者
 へ濃別武士と赤野七右衛門因身助六郎森孫五八奥村平六左衛門波
 多勝右衛門坂井興左衛門と中者あり、進退の聲起て、假所を以て、まゝと
 兼所り、馳登り、いありと、言官たる小野村の怪し、若や山徒の謀計ならん
 歟、追討さるゝと、謂る也。行中守を深奥く制止。宗依のいふも、疑ひなし
 濃別者より、言官も違ふも、然心なき輩なりと、勧め小を、後陣へ呼寄
 ば、馳よらまふよし。いふも、勇恃の陣小は、將軍家小所奏あり、まゝと満是小
 かがさるべし。遠路小を、進退を拒抗する名、まゝと、陣を、預ふと、懸心、勤小、意

養る小ぞ、六個の勇士、大小教び、羽之夫ハ、俺們、魁強とて、高名せんと、院
 程を、當夜も、先彌ま、九日の早天小之好、懸一、万餘騎を、長蛇小
 備へ、大宮を、のり、小近通り、小方より、推せり。喊を、作り、櫻敷を、鳴り、懸親
 の群を、列ね、七大海を、新ら、像く、本國寺を、當て、推進す。遠路、回通、路小、隊、出
 たる。野村、陣の、先隊より、各院、透向、かく、放蕩、正里、小、形く、くる、まゝと、東、海へ
 若狭の、浪士、内孫、備中守、重純、(天別、武田の、山、孫、源、内、元、登、外、野、孫、七、郎、守、正、好、
 どの、小、者、最、前、野、村、が、陣、小、加、う、う、又、濃、の、六、人、と、一、隊、小、多、う、て、群、競、ふ、こ、好
 勢の、大、軍、と、殊、と、も、せ、を、陰、を、拙、く、突、扱、り、最、後、左、右、小、近、旋、を、遠、勢、威、小
 こ、好、の、先、隊、撤、前、さ、ま、て、遠、逸、起、を、岩、成、見、る、より、大、小、怒、り、新、量、の、微
 勢、小、近、旋、さ、る、事、や、あ、る、中、小、提、團、一、隊、も、金、を、ま、て、踏、を、捕、や、と、嚙、と、う、ま、ら、
 自、槍、と、か、つ、取、て、正、魁、小、進、を、戦、へ、ま、ま、山、森、十、郎、太、右、衛、門、を、吉、成、ま、助



本國寺
合戦
赤野倚
勇戦



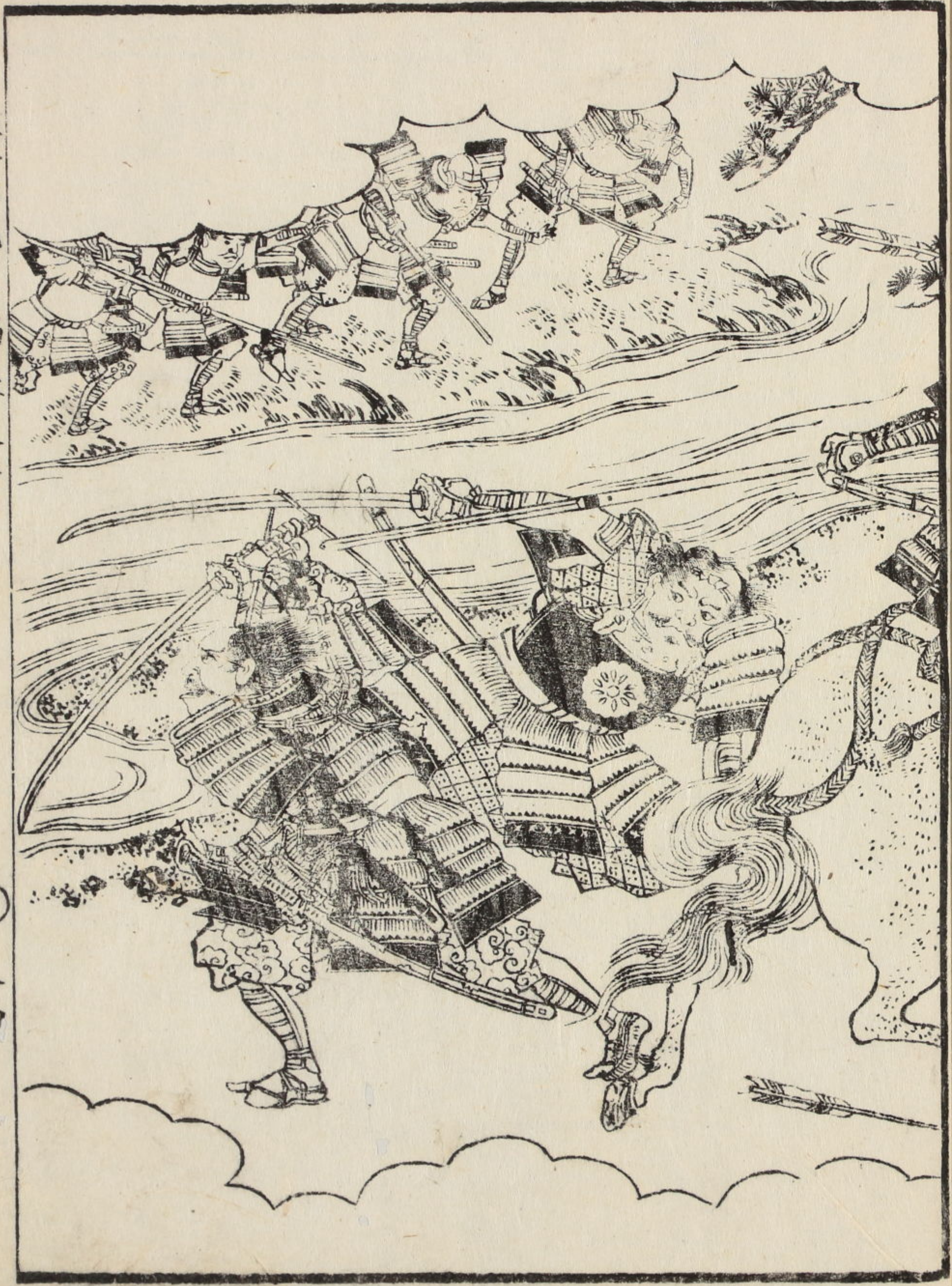
伊丹池田こそを所令お道を行き、渠小渡らきて隙をうへ。去ら山越して急ぐんとく、社姫郡を丹波へうと越山峠の國乙訓郡へ馳せり。五日此寅の刻、義継一隊、漸く小向の明神帯へ人馬とて姑く息をど。健る處、池田筑後も同豊後も同丹波も荒木信濃守、併馳着し。とを急げとて一同小京都を當て馳せり。遠駒岩成主税助諸下の權を、あるを所、松河の軍勢馳せり。容易軍あり。款備し、ちて新截、自軍大小難危あり。只義継とて小退還るに、餘を思ひ、唇を其間小本國寺と計ら、和と謂小山城守も同意して、一万余騎を二隊に分ち、ち好日向も同小野も吉成も山、秋一小本國寺へ向をせ、岩成主税助へ、ち好山城と一隊あり。ち好義継と退散さんと桂川へ進發を、跡小向の將軍令や、出所有ると侍どもも、徳思とてま、の追う、徒小時を移さんや、本國寺を權

ばけとて、五千の兵士一同小滅せつ。惟新當て推出と、茲小和丹伊賀也。惟政ハ播別、其川小をり、運賊系都を、終ふと所、ち大車と自勢の、ちて。四日の暮、小及、演、谷川を、ち、九日の日、中、過、山、峠、の、國、西、に、小、馳、る、が、遠、く、人、馬、の、息、を、休、め、松、別、の、新、家、人、を、侍、令、せ、ん、と、か、り、ひ、ん、と、も、こ、そ、隙、小、運、徒、依、新、新、小、次、投、君、小、車、あ、ら、大、切、り、所、時、も、終、務、を、終、し、と、自、勢、僅、小、之、百、余、人、束、の、上、刻、西、の、國、を、う、ち、起、て、本、國、寺、へ、馳、せ、り、ち、好、勢、の、五、千、余、騎、と、同、通、津、の、名、を、て、行、合、と、す。和、田、へ、僅、小、之、百、余、騎、之、好、ハ、五、千、百、余、騎、の、大、軍、と、い、は、し、り、と、も、此、も、擬、儀、を、一、破、小、邊、舟、を、突、て、投、利、徳、の、稻、麻、を、薙、る、が、像、く、血、烟、起、り、戦、を、り、ち、好、方、の、五、千、余、騎、和、田、勢、の、音、を、心、尖、小、單、と、一、人、も、刺、さ、し、と、塵、小、せ、と、播、起、と、す。和、田、へ、名、小、原、と、名、之、り、活、き、こ、の、雷、火、の、像、く、固、き、こ、の、磐、石、の、像、く、然、と、も、長、途、の、疲、勞、と、い、ひ、終

四通路合戦

和田伊賀守

危急



交差もあらずに漸く勢盡き氣折て八十余人戦死す。残りも大軍の
 疵を負い伊賀守も之を不為所難と負ふも億とる色好く敵もあま
 次倒し。今ハ槍折馬驚きて脱小戦死と見えしを不小呼敵一や之好勢思も
 らぬ小背崩と右往左横小散れを和回帷返ハ不思敵も九死を適きて
 一生を得遠小東山とていへあま。五色の吹貫と心魁小揮棄を幣二十の百
 有餘強峰渾負堀尾和回と魁に。本下藤吉舟秀吉中軍小備推を
 是小續て幾千万とくはるもなき。大軍山台小充滿す。是ハ凶徒と知さんと大
 津山科宇治田原そこの御民を若擧りひ集め旗旗幣標を推立。濃
 尾の大軍後援とて推進す。徳をあしむ。之好方の五十余強狼狽して
 強動。背崩とぞやとる。竹中半兵衛目たやも五色の吹貫を見んじ
 久よや本下江竹より歸家とじてい。遠方も亦發精力を勤せん若續とる

以と擧返擧く心魁小進め我方と一千余人土棚と強出。本下の
 隊小亦とて敵と様とこと死小種風の熟果と墮とる像。之好勢もや脱小
 噪とる機會とのひ昔當時の習を其。濃尾張の諸軍勢後小續くと
 視察り。古ハ武突のや旗當標。魁も脱く落る。之が候捨入隙も弱く迷惑不
 せに。之好義継ハ池田伊丹の勢を併せ。若成依の軍を逐。桂川の形も
 追の追。一戦ひる。池田伊丹の軍勢ハ遠旁より難攻を脱。敵漸く此小
 一。息ども休めぬ。強敵を極威する。若成依の軍を逐。桂川の形も
 まで追逼ら。軍危く。え。本下。遠軍の危き事之所。之決。思。番
 英昏こそ究竟の時刻を。速進よ。火急小指揮を。伴の御民軍と。番小
 向。桂川下傍。之好岩成。益々。横際より。喊。つ。螺鼓を。鳴。大軍
 の態。目を。本下。自軍の。士の。連。も。敵の。進。と。心。得。く。鷓鴣の。怒。小

一十四年
豊後言三編
卷之二

驚く儻く散乳中へ入るる處へは條崩きの好姫桂川に當て逃來れ。
 敵に大軍近づけりと會く信を警備し月も通まぬ樹中宿を及子に
 後の恩義も忘るる命計を响響と途を求て遠く小泉別の方へ落し
 たり。初一万余と所へ一勢も言成其助林源左郎宗良た逃出成に助
 の小勇と戦死する軍八百余人を余の敵に破れ小行末も知らざるに
 遠响木下孫吉師の落行凶徒を逃奔て古國寺へ入上り。將軍の所
 不徒作し難て云快とらく凶徒候遠く落果て所敵令一人も都小勇
 いらぬに河心寧かがしめせと重上り上る小義昭公派へ所感ほしく玉ひぬ小
 さる信長の月代とて守護をせしも理ありと稱く木下が智謀の量心知しめ
 さまとて賞さるるに小泉入ると好義繼任丹後守。將軍の命を率領し
 古國寺の河初小泉上りて將軍の命を倣せ賞さるるに田原日京都小南へ

守護をせしめしと命出さる。申小籠へ池田の惣へ好山城も小敗ら
 そのまゝやまを。池田の城へ還りたり。備する織田弾正忠信長も
 攻車城小車も。今歲ハ勢南を伐果んとす準備を倣るるに
 正月五日未の刻京都の駒馬川東へ。好の凶賊蜂起して教方の軍勢都
 へ推進合戦も急なるに。注伸小及び。機會も。信長會討して
 おいせしが。河勝を推去座を起む。この凶賊蜂起のし。所時も猶豫
 ぬし。務絶登り謀殺せん。城中の諸士跡小續けと羯鼓をのり。拍瀾れ
 自地小駿馬を率せら。飄流と跳張只一騎鞭を發小うち合せ一散小
 敵をふと。響の庵後六七人。かまじとこそ。種勇と雙の大將小
 平日より斯く強き事。好まを。小性賢なる。大喝中へ馳至小
 二里計も来りし頃。雲時と馬を馳めら。息次んとて。繼登り。旗の色



信長
京都の
騷動を
知らせ
た
急ぎ
登り
た
ま
ま
図



のせ取出。勢をさしきりては、いふ。とよしく是を伺ふ。都の治伴を所せし
 己に、膳小向や、くちまを、か、椀中の飯をその俵小紙ふうちわけ、齋を、し、けり。
 新北に中より、軍小熱する大將あり。形ある、緯を、衆人、勝を、玉ふ
 己知らまじ。落び馬を、現せ、あひ、當夜、其の、刻に、鐘鳴、あ、海。に、列、宮、小
 馬、玉ふ、此間の初夜十五里余あり、今宵、い、着、小、休息、あり。翌日、瀬田、を、馳、あ、信、三、京、都、を、
 再、が、馳、馬、川、東、一、山、徳、一、端、所、小、推、寄、火、急、小、軍、を、と、り、公、も、諸、士、よ、く、防、が
 戦、ひ、一、六、遠、小、歩、輪、邊、散、一、と、京、都、靜、難、小、な、び、し、せ、と、さ、く、す、つ、ら、小、信、長、の
 或、の、安、途、一、あ、る、の、喜、悦、一、也、地、小、入、洛、ま、じ、り、好、色、も、人、馬、長、途、小、勞、れ、
 ば、姑、く、こ、ま、を、休、め、後、靜、小、し、う、重、き、ん、と、て、そ、日、ハ、瀬、田、小、止、宿、あり。七日、法、原、小
 乃、ふ、こ、ろ、信、長、本、國、寺、一、參、り、ま、ら、ま、て、將、軍、家、小、出、仕、一、合、戦、漸、勝、利、の、朝、を
 賀、一、た、ま、す、し、小、義、昭、公、も、信、長、の、神、速、を、入、洛、を、深、く、感、一、合、戦、の、功、業、を、

士の下、方、亦、下、謀、畧、は、絶、倫、多、う、ま、と、命、出、さ、ま、る、と、信、長、も、こ、ま、を、奪、く
 賞、一、殿、様、一、首、を、一、覽、あり、一、兩、日、七、鐘、か、ど、に、淺、尾、勢、の、諸、軍、勢、を、た、ま、ま、の
 ら、を、入、洛、せ、し、ま、る、一、五、萬、有、余、人、一、覽、つ、然、バ、此、勢、の、あ、る、も、小、殘、を、止、し、山、徳、軍
 と、悉、く、追、伐、を、と、一、と、も、準備、を、ぞ、せ、ら、ま、る、が、餘、小、を、好、方、の、一、談、を、案、或、は、桂、川
 小、戦、死、員、數、を、知、ま、た、北、小、一、く、京、列、を、ひ、た、遠、く、と、り、と、り、と、も、危、瀆、に、
 大、軍、日、々、小、入、洛、せ、し、と、傳、所、今、ハ、決、り、も、及、び、し、と、四、國、を、當、て、送、還、な、れ、バ
 殘、黨、一、個、も、あ、ら、ず、ら、を、茲、小、を、觀、の、入、江、近、の、存、び、凶、徒、小、一、方、せ、一、不、義、略、白、あり
 乃、こ、早、速、京、都、一、傳、上、せ、再、犯、の、咎、免、一、と、て、遂、小、切、腹、を、せ、ら、ま、し、信、三、不、義、士、小、將、徳
 一、和、田、惟、政、が、忠、義、の、戦、功、言、語、を、り、く、賞、を、と、れ、と、公、の、褒、詞、に、熟、を、り、け、ま
 其、个、智、計、銳、敏、民、神、遠、營、馬、同、法、宣、傳、
 刺、拉、馬、姓、と、長、一、に、し、て、龍、蛇、の、統、治、を、議、さ、る、の、聲、ハ、茲、小、京、列、城、の、町、人、軍、を

織田殿錢財を
りて堺の街民の
罪科と贖いび



豊臣記三編卷之三



豊臣記三編卷之三

た多の所日所新の造管を詞嚴小令せらる成能の目まで信長小都小追
 尚あふべしと二條妙覺寺小在陣し玉ひ万事を命せ出されり。頃ハ二月
 廿七日琳細の式ありてより黒と白小継など。修理を急ぐと多ひる奉行
 ハ村井氏於巫嶋田不之助友人多。敷地ハ青島の新不讀と東西ハ一町づ
 徑田ガカ士とりて地鎮せり。及小江列の浅井備前守長政ハ之好輝
 の信仲を所とひて上洛し。所不の守備小在系し。と信長大不飲少
 多ひ遠道柳管修理し。浅井家より人持せ加勢したまふ。と頼
 せと多ふ小長政も異儀なく。こまを果話也。東山清水寺小宿陣。日小
 人技を出させ修理を技師をといふ。大造管のり。と人吏を労する
 事の多く。とらふし。うらさる。へ信長諸士を集めらる。命出されり。と
 場小條にて忠を致さる。土木を運びて功をさる。公方小綱と勅旨の衆

ありこと更小なし。新所の造管作事の偉人技小のともはせを。数日
 小及ぶり。けあらは。獨り。船ら。と。蕭牆の内小起。一。智むら。く。月。今。将
 借小ら。も。より。玉。石。と。運び。く。行。時。も。迷。く。成。就。せ。く。久。て。将。軍。を。移。し。小
 ら。を。こ。と。忠。誠。を。信。長。親。の。托。と。出。す。と。一。と。て。赤。色。の。小。幡。小。赤。地。の。旗。の。半。臂
 脛。帯。半。纏。さ。う。と。履。ひ。石。杖。束。を。運。び。く。多。く。柴。田。佐。之。向。木。下。坂。井
 丹羽。森。若。田。の。歴。々。衆。お。ひ。ひ。く。小。幡。束。一。人。持。小。混。と。濁。カ。一。け。と。
 浅井家の諸士も。親小。忠。び。と。一。家。掌。諸。士。を。物。は。集。小。赤。松。織。田。家。の
 諸。士。小。ら。も。より。竹。石。杖。束。を。運。送。す。然。る。小。幡。束。一。江。列。之。角。の。う。ひ。小
 善。作。和。田。山。を。攻。め。の。と。ら。り。浅井家。諸。士。を。り。て。親。音。寺。の。城。を。雁。防
 する。と。信。長。より。結。ま。れ。し。を。長。政。と。思。ひ。く。や。楚。く。江。應。せ。り。し。織。田
 家の諸士達。こま。は。う。ら。も。と。思。ひ。浅井。の。名。の。武。士。小。と。將。軍。と。り。小。集。衆

豊田言三 御書之二



豊後国三浦郡



織田浅井の
驛卒輩の
運土の
場
騷動

豊後国三浦郡



秀吉の速智
勅光を借る
修理場の
騾動
鎮む

ありと緋袴し止むる時ひまひ遠邊両家の兵士達うち入りて土車運入と
 技闘うち下部の習として織田家の兵士は小浅井の侍士を侮り俄に
 沓士の如く踏果を然とも信長赤装束小く出らまはる小浅井は
 諸士達源く詰む所ぬ翫せり織田家の兵士圍小をまてまはる我を捕ひ
 りて然る信長より浅井柴田森佐久間の兵士小命出さまはる漸下の
 總構を穿せりるが浅井の兵士は之に因佐右衛門が部の兵と柴田佐久間
 駿率と先鋒の鬼口を過して争論小及び之を因佐右衛門も後東
 上を念ひ断りまはる遠邊論を離れし鬼口たる柴田佐久間の
 駿率を散く小打擲しるは織田家の兵士飲らも致馬死擲落ありと身命ひ
 淺長刀を打出る突合斬合ありる小浅井はさき事あり浅井の
 勢ひふられとも恨一箇小敵とて人命を棄て斬果に江別武士の勇を顯

えし能得を雪んと思徹怒氣十小満し其鋒の結多小織田方大勢
 ありとのこも遮り休て敗走を浅井の兵士追蒐る遠隔小斬伏形角小極
 伏江別者の修練を見よ織田武者の界懐さよと罵り身んで逃ふかに
 柴田佐久間の陣面まで只一捲小退後る。篠原信盛を退て腹の
 一。此士より槍を退扱て浅井の駿率を擡返を森三左衛門も親の
 柴田佐久間をひめんと自勢を棄て出りて其勢ひの止まらば田心ひけん
 同く就きて戦ふ。浅井が隊よりも遠邊森三左衛門の中流日向守候を
 とめんと為しられども佐久間柴田が勢はさし不方なく自方の先きを覺察
 ごとく其小敵合戦ふり遠响信長妙覺寺小を以て遠勢動をさし
 大小愕然をひつ。駿率の鬼口たるハ尋常ありまを侍士輩のどをけり
 撃起く大軍小を漸不遠邊を跡小せし陣を棄て擡玉極あり

殺らざれば得ども。織田殿の御妹小親とせしむ。一宮の御孫清光とせしむ。その
 何とて異心は御兄初孫の御孫を命の御孫より願ひ奉ること願ひて
 伸々まゝ双方の武士達も思惟て退去りけり。本下へ本陣へ奉りて和議
 の傳を乞ふ状にれば。織田殿又小感悦せらる。褒賞殊小清光とせしむ。

繪本豊臣勲功記三編卷之二終

